

『老農加藤由兵衛』さん関係の資料について

提供・三重県史編さんグループ

年月日	西暦	事項	内容	出典
明治14年3月	1881	勸業会員	郡報告「三重・朝明郡勸業会員人名」の一人として掲載される	丹波家文書『四日市市史』史料編近代Ⅱ
明治14年8月18日	1881	県農事会	県医学校で開催。県内各郡から農事会々員21名出席 三重郡から2名出席 「種子精撰及貯蔵方法 十八番（加藤）曰 我地方ニテハ丸キ雌穂ニシテ袴ノ枯レ込ミ縮マサルモノヲ撰テ之ヲ蒔クナリ」「各種肥料ノ効用及其施用方法並肥料製造方法 十八番（加藤）曰 通常山ニ在ル青ネバ岩ヲ採リ之ヲ能ク乾燥シ干鰯を混和シテ肥料トスレハ大効アルモノナリ」	『三重県勸業月報』第20号
明治15年12月7日	1882	稲作試験	明治15年稲作試験表（稲名 福島県産・岐阜県産・関取・須賀一本・伊勢餅など18種）郡勸業会に提出、丹波誠一郎が謄写	丹波家文書『四日市市史』史料編近代Ⅱ
明治17年3月5日～7日	1884	三重朝明郡勸業大部会	四日市上新町光運寺で開催 「田畑耕耘ノ便法及改良ニ付実験ノ説 六番加藤由兵衛曰 余ハ曾テ南牟婁郡西徳兵衛發明セシ田ノ草取り器械ヲ試用セシガ重キニ過キテ疲労多キカ故、聊カ改良ヲ加ヘテ六寸ト七寸トニナシテ使用セシニ大ニ便ナルヲ覺タリ」 「肥料ニ就キ実験ノ説 六番加藤由兵衛曰 余カ地方従前ハ田肥ニ石灰又ハ干鰯ヲ多く用ヒシカ近年ニ至リ専ラ松前糠ヲ用フル事トナレリ、而シテ余カ屢々実験スル処ニ抛レハ油粕ハ幹ヲ肥大ニナセトモ収獲充分ナラス、松前糠ハ之ニ反シ幹ハ充分ニ成長セサルモ収獲ヲ多くセリ……」 「苗種試作ノ景況 六番加藤由兵衛曰 余カ曾テ試作セシ所ヲ陳ヘンニ福島県産ノ稲種ハ始メ成長悪シクシテ后良結果ヲ得タリ、栃木県産ノモノハ之ニ反シ始メノ景況ハ至極美ナリシカ終ニ収獲ヲ減セリ、是完ク地味ニ適セサルナラム、其他岐阜県産ノ早稲ハ収獲充分ナラス、滋賀県産ノ糯種ハ一昨年不作ニシテ昨年ハ良作ナリキ、尤モ各種ノ内白髭ト称スルモノヲ第一トス、之ハ真土砂土粘土ノ別ナク何地ニモ適スルモノト思ヘリ」	『三重県勸業月報』第51号
明治17年10月10日	1884	三重朝明郡第六小部勸業会幹事	報告 「本年田方ノ農況ヲ視ルニ早稲ハ昨年ヨリ二割ヲ減セリ、中晩稲モ風害虫害ノ為メ実細ク白穂多シ、又タ客年早魃ノ余響ニテ実入一体ニ良シカラス	『三重県勸業月報』第57号
明治17年11月10日	1884	三重朝明郡第六小部勸業会幹事	報告 「部内稲作中早稲ハ穂実過半細小ナリ、中稲ハ空籾多く、晩稲モ亦其實細クシテ宜シカラス、之ヲ平均スレハ平年ヨリ二割半ヲ減セリ肥料ノ施高ハ一反歩ヘ概ネ干鰯四斗八升代金一円廿銭、土肥八拾荷全六拾四銭、厩肥廿荷（全六拾銭）ヲ施シタリ	『三重県勸業月報』第60号
明治24年3月29日	1891	三重農業協会賞牌受領	三重郡桜村大字桜 加藤由兵衛君 貴下夙に力を農業に尽し其功勞尠なからざるに因り茲に本会は規定の賞牌を増進す	『三重農業協会報告』第29号
明治24年5月11日～12日	1891	三重農業協会開設農談会	度会郡役所で開催された農談会に指名選抜、「第十番 三重 加藤由兵衛君」	『三重農業協会報告』第30号
			「○種苗談 十番加藤曰 種子ハ清水ニテ能ク精撰シ塩水ニ浸ス事十日間、而シテ更ニ之ヲ清水ニテ洗ツテ良シトス、尤モ十日間塩水ニ浸ス間ハ毎日之ヲ替代スルヲ宜シトス、而シテ麦ハ塩水ニ浸シタル儘、之ヲ播種スルモ決シテ害ナク……又綿種ハ安芸国ヨリ来リタル白綿ト称スル種ヲ蒔キタルニ至極収獲多カリシ実験ノ儘ヲ述ブ」 「○肥料談 十番加藤曰 肥料ノ事タル農家ノ尤モ注意セサルヘカラサル事タリ、而シテ目下農者ニ於テ肥料トシ用イル石灰ノ如キハ土地ヲ瘠セン將來ヲ慮カレハ之ヲ用イルノ不可ナル事ハ一般農者ノ知ル処ナルモ如何セン、其価廉ナルヲ以テ近來之ヲ用イル者多キニ至リタル、実ニ歎スヘキ事タリ、然リ而シテ堆肥肥料ノ如キハ農者ノ注意ニヨリ無料ヲ以テ肥料ヲ造リ得ラル、事ナルヲ以テ本員地方ニ於テハ成ルヘク堆肥肥料ヲ造ラシムル事ニ尽力セリ」	『三重農業協会農談会記事』（『三重農業協会報告』号外）